

第4回 脊振小学校



私たちの学校自慢

この連載は、市内の小中学校を訪ね、他の学校には負けないという「学校自慢」を子どもたちに紹介してもらおうコーナーです。

4回目は、脊振小学校です。6年生全員（末次智樹さん、廣瀬裕也さん、西山星那さん、高取草太さん、吉田翔さん、大坂裕也さん、山根優大さん、宮田真鈴さん、藏戸史穂さん、尾家千晶さん、眞島菜桜さんの11人）に話を聞きました。

この学校の自慢は何ですか？

- 末次さん 「給食が美味しい」
- 廣瀬さん 「日本一の石門」
- 西山さん 「人数が少ないけど仲良し」
- 高取さん 「自然に囲まれてる」
- 吉田さん 「温かい給食」
- 大坂さん 「元気なところ」
- 山根さん 「温かい給食」
- 宮田さん 「あいさつを良くする」
- 藏戸さん 「自然が見える教室」
- 尾家さん 「ランチルームで全員給食」
- 眞島さん 「積極的に取り組むこと」

日本一の石門の教え



学校給食が子どもたちに好評です。脊振小の学校給食は昭和35年にスタート。昭和57年3月の校舎新築で、県内初のランチルームを採用。以来、児童全員で給食を食べています。自慢の給食実現の背景には「村づくりは人づくりから。人づくりは身体づくりから。郷土を愛する子どもたちのため」という当時の村の教育目標がありました。



校長先生から一言

学校教育目標の「進んで学び、瞳輝く脊振の子」に向かって、はりのある挙手、目を輝かせて学習、気づいて行動する子どもになってください。

脊振小学校 校長 古賀敏正



石の門の教えを受け継ぐ脊振小学校の児童たち

教育に熱心な気風は明治時代までさかのぼります。明治8年、民家を借りて始まった学校ですが、村出身の教育家・志波六郎助が各戸を回り「人の賢愚は学ぶと学ばざるとによりて岐る」と説き校舎を新築します。その後脊振村の基礎を築いた徳川権七が財政の独立を図り植林を進

めたのと同時に、人材育成のため、大々までの学校設立を目指します。その想いが形になったものが日本一の石門と呼ばれる脊振小学校の校門です。大正天皇即位を記念して村の教育のため村人約600人が重さ14トと13トもある花崗岩を山から切り出し設置したものです。

その想いを忘れないようにと昭和61年に当時の本村豊校長が石の門の教えとして「郷土を愛し学業に励む子」「品のある礼儀正しい子」「意志の強いやり抜く子」「心の大きい優しい子」「体の丈夫なたくましい子」の5カ条を制定。村の教育への想いが受け継がれています。

中国の書「管子」に「二年の計は穀を樹うるに如くはなし十年の計は木を樹うるに如くはなし百年の計は人を樹うるに如くはなし」という言葉があります。脊振地区はこの言葉の通り、作物を育て、山を育て、そして人を育ててきました。この想いは、子どもたちの学校自慢のなかにも受け継がれているのがうかがえます。

脊振小学校の自慢は「石の門の教え」と言えるでしょう。